



景観に配慮した一般建築物

## 千葉市美術館・千葉中央区役所

所在地：千葉市中央区中央3丁目

施主：千葉市

設計：(株)大谷研究室

施工：清水・西松・ナカノ・三菱共同企業体



撮影：小林研二

市立美術館と中央区役所の複合施設として建設されたこの建物は、21世紀を展望した国際都市千葉の都心部にふさわしい気品と密度の濃さをもった建築物となっている。市民から非常に親しまれてきた旧川崎銀行の建物―大正期の建築様式、いわゆるネオルネッサンス様式の建築物―を、鞘堂(※)方式により正面ホールとして活用しながら、貴重な歴史的建築物の保存をしていくものである。

建築物全体の施設配置計画をみると、旧川崎銀行を正面ホールとして生かしたことにより、1階から5階までの中央区役所は、単なる庁舎機能だけではなく、新しい地域社会の拠点として、市民交流の場としても活用される。

また、6階から10階に配置された美術館は、広く市民に

親しまれる芸術文化の場としての配慮がなされている。

設計及び工事方法においても従事された方々の優れた英知が感じられ、また鞘堂の工事に当たられた職人の技術は想像以上のもので、すばらしい出来栄である。

千葉市美術館・千葉市中央区役所は、歴史的建築物と新たな施設とが融合しており、新たな保存方法として全国から注目されている。

このようなかたちで、人間と建築物との調和が図られ、未来への文化遺産として残されていくことは非常に意義深く、すばらしいことである。

※鞘堂

建築物を風雨、火災などから守るため、外側を覆うように設計された堂。

(青山 靖 委員)